

651

特250

361

經濟研究會編

躍る人々 電力工業に

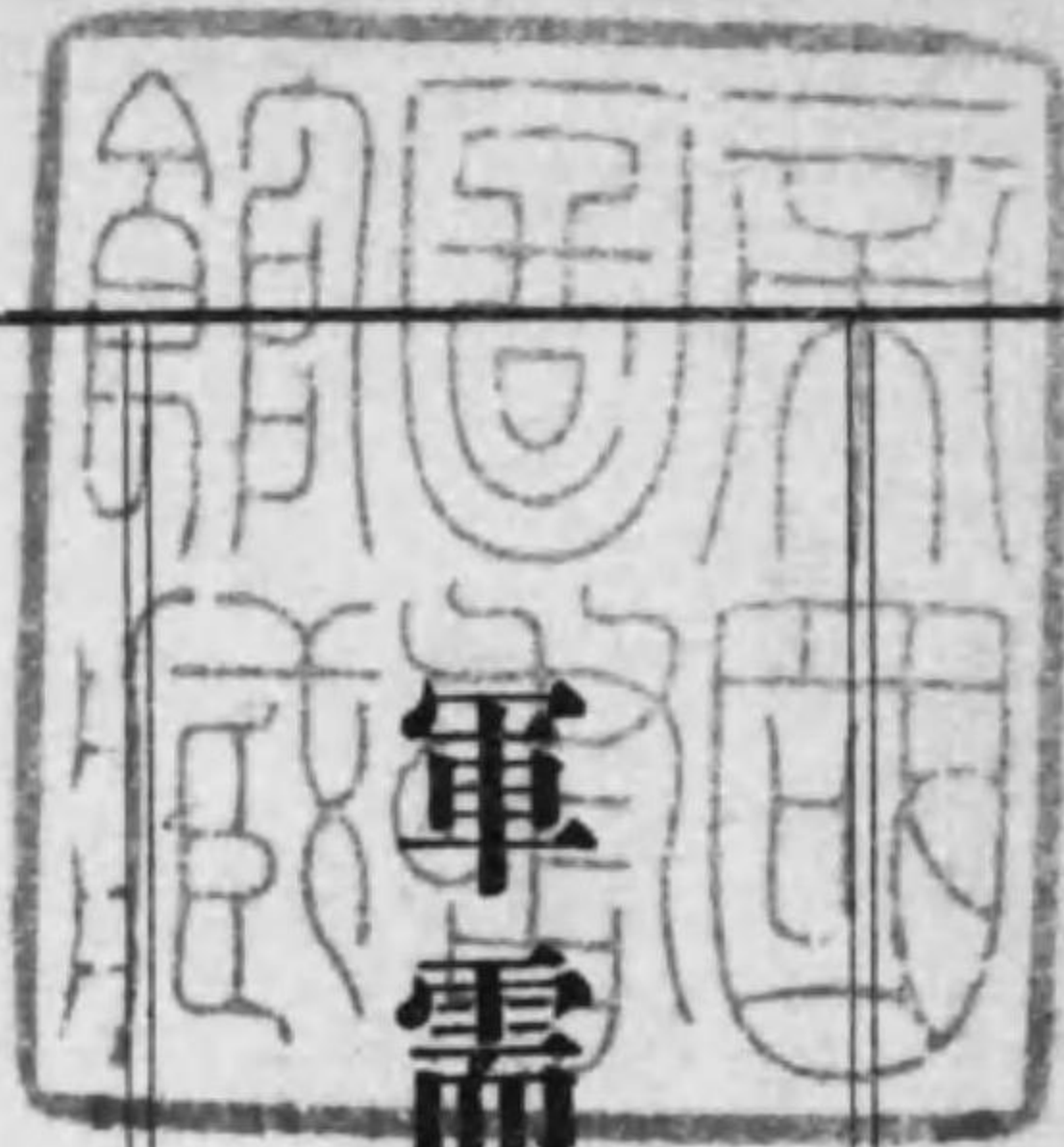
定價十錢

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始



特 250
36



國防經濟研究所編

軍需工業に躍る人々

東京有恒社發行



國防經濟研究所編

軍需工業に躍る人々

軍需工業に躍る人々

第一卷

目次

一、軍需工業の活況

軍需インフレ萬歳——軍事費の増嵩——軍需インフレの持続性？

一、鮎川義介

時局インフレ花形男——オープン・コンツェルン「日産」——彼の経歴——「企業
浄化装置」の辯——日産コンツェルンの全貌——日産の蟹工船獨占——時代の入鮎
川——彼の事業——彼の抱負

一、森 盛 昶

財界國技館の花形——財界へのスタート——味の素鈴木とのコンビ——失意の奈落
へ——「廢物利用企業」——森コンツェルンの全貌——アルミの劃期的成功——彼
の大氣焰

一、野 口 蓮

日窒コンツェルンの總帥——技術家出身野口——ドイツ流合理主義經營——野口の
技術家優遇——彼の唯物觀

一、中 島 知 久 平

海軍機關將校より財界へ旋回——再轉政界へ——彼の達見——川 西との提携——彼
の苦境——遂に飛行機王となる

一、白 石 元 治 郎

日本産業心臟部川崎市の偉觀——淺野翁の女婿——鋼管界の父

一、軍需品會社の展望

三菱重工業——芝浦製作所——古河電工——住友伸銅鋼管——日鐵——石川島造船
——川崎造船——日本皮革——新潟鐵工——神戸製鋼所——大阪製鎖——大阪機械
東京計器——浦賀船渠——帝國製麻——東京製綱——其他

軍需工業に躍る人々

軍需工業の活況

滿洲事變を契機として俄然好況を呈し初めた我國の軍需事業界は其の後も益々隆盛を示して今日に及び、この種事業家にドツサリの利益を微笑みまさに軍需インフレ萬歳のかたちである。

例の金輸出再禁止より生じた爲替定の爲めと、工業化學界の技術の長足の進歩に加へて、年々増加する軍事費の膨脹が軍需工業關係の好景氣を齎してゐることは云ふまでもあるまい。現下の國際情勢から推して來るべき海軍無條約時代を前にして國防の見地から必然的に軍事費の増加も豫想される。さすれば勢ひ軍需品も生産増大されるであらうから、當分の軍事インフレ活況は持續するものと見なければなるまい。

この事情を政府の豫算内容に徴しても明かであり、昭和十一年度軍事費計上は歳出總額に對し

て實に四割七分、約半額をしめてゐる有様である。

これらの軍事インフレの再活況を直接且つ全面的に受けるのは何んと云つても重工業方面で、昨今の重工業部門は文字通り軍需インフレに躍つてゐると云へよう。續いて軍需工業として間接的役割を背負はされてゐる化學工業の發展も亦見通し得ないのである。然らば機械工作界は如何と見れば、これ亦軍需品製作に追はれてそれ／＼活況を示し、繁忙を繰返してゐる。ゆゑにこれら諸生産部門の活況に伴つて電力供給源たる電力界の活況も仲々好調を續けてゐる。

かくの如く軍需工業は他事業に比較して前途尙相當持續を約束されてゐるといふ理由を今少しく具體的に考察するならば、我が國は國際聯盟を脱退して以來、各國の軍擴氣運に伴れて、國防の充實——換言すれば軍事費の増嵩不可避と考へられて來た。然かも一九三七年以降の軍縮協定よりの脱退から、軍事費の増額は更に加重されようから、三七年以降の軍事費膨脹は必至であることも明白であらう。従つて所謂軍事インフレに關する限り、その好調に持續性があるものと思はれるのである。

故に軍事インフレを全面的に直接に受けるものは前述の軍需品中心の營利會社であることも首

肯されようが、とり分け、重工業——(鋼材、鉄鋼、石炭、銅、造船)輕金屬工業——(アルミニウム、アロイ)、化學工業——(硬化油、硫安、石灰窒素、火藥等)海運——(船舶、輸送)機械製作部門等の廣汎に亘り黄金の雨を降らせた。

斯くの如くにして、時局以來の所謂軍事インフレは我國軍需關係工業を決河の勢を以て繁榮に辿らしめた。

今既成財閥は暫くおき(これは餘りにも讀者の知り盡したことから)かゝる軍需工業繁榮の波に躍り出でてタンマリ儲けてゐる時局インフレ男をさしあたり五人らつし來つて解剖し、併せて隆盛を辿る軍需品諸會社の展望に及ぼう。

鮎川義介

この二・三平にこれ程男をあげたものは何處にもあるまい。それ程鮎川義介は當つてゐるのである。彼は軍需インフレの波に乗つて四十何社の支配會社を指揮し、金銀銅・石炭、石油、機械自動車、ゴム、船舶、漁業、魚糧、鯨油、罐詰、製氷等々何んでも來いである。流石に總司令

部を日本産業會社（日産）を稱する丈けに間口の廣汎なことは既成大財閥にさへ減多に負けない位である。

こゝで鮎川の本營たる日産の特質を是非註釋しなければなるまい。そもく日産はオープン・コンツェルンの代表的なものであつて、このオープン・コンツェルンといふのは持株を廣く大衆に公開するといふ仕組であるから、大衆公開持株會社と云へよう。故はとりも直さずこれはクローズ・コンツェルンの逆である。鮎川はこれについて三井や三菱と云つた大財閥は本營の三井合名や三菱合資を一門や一族で固めて世間からスツカリ隠してしまひ子會社の株式も一部分しか公開しないが、わが日産の方は本營の日産株さへドン／＼公開してゐるんだから文字通り大衆會社であるといふのである。日産株總株數四百萬株は約二萬五千の株主に分配されて全國津々浦々まで行き渡つてゐる有様である。

元來、三井や三菱のやうに銀行といふ掩護射撃のない鮎川にとつては、この仕組によらなければ資金の調達に不自由を來したからのことで、昭和八年一月日産所有の日本鑛業株中十五萬株を七十六圓見當で賣出して一舉に千百四十萬圓といふ現ナマを稼いで世間をアツト云はせた等、も

とく／＼帝大出の工學士といふ技術家である彼はまたオープン・コンツェルンなどいふ金集めの妙策にも優れた手腕を發揮してゐるのである。

彼は明治の元勳井上馨侯を大伯父として生れ、また彼の令妹キヨ子さんは政界の惑星たりし久原房之助の夫人であることは世間周知のことであるが、何處を眺めても金の縁には充分深いから月並の出世は當然であらうといふかも知れない。然し今日資本金二億圓内外拂込一億二千四百五十萬一千圓といふ日本で何番目かの大會社の社長となつた彼はやつぶり偉いところがあつたと云はねばなるまい。

こゝで彼の經歷を少々物語るならば、彼は大學を出ると日給四十錢也の一職工となり芝浦製作所へ勤務すること二ケ年に及んだ後、明治卅八年渡米して又々一年有餘を職工として實地に叩き上げた變り種である。歸朝の翌年資本金卅萬圓で九州に戸畑鑛物會社を創立し、財界へのスタートを切つた。十年以上もコツ／＼辛抱して百卅萬圓程儲かると大いに中央でノサウといふ魂膽から大正九年上京して共立企業（資本金五百萬圓）を興したが當時彼の所へ賣込みに來たボロ事業會社が四十六社もあつたといはれる。彼はこの四十六社のボロを丹念に調査してスツカリ事業の

てゐると云へようが、今一、二の軍需品會社を展望してみよう。

一、株式會社日立製作所（資本金四千五百萬圓、拂込三千八百七十五萬圓）

元來舊久原鑄業（只今の日産）の附屬工場だつたのを獨立させて、機械工業國産化強調から何等外國資本の掣肘も受けぬ方針と、一方技術的に一切の外國特許權を利用せず獨自な優秀製品製作に依つて外國製品を駆逐するまでに發展して來た。従つて時局インフレによる受註高は期を逐つて増加し好調を辿つてゐる。社長小平浪平。會長鮎川義介。

一、國産工業株式會社（資本金一千五百萬圓、全額拂込済）

鑄物、鐵工品一般、内燃機關、塗料等を主要事業とする當社は去る四月の株主總會に於て千五百萬圓増資を決議したが、昭和八平上期からの業績より本格的に飛躍し昭和十年兩期の受註高は二千五百萬圓を突破してゐる有様である。會長には鮎川の令弟藤田政輔就任し、社長は鮎川の片腕とまで稱せられる村上正輔である。鮎川は相談役。

さてかくの如くにして所謂産金インフレ、軍需インフレに大當りをとつた日産は兜町での花形株になつたのは云ふまでもあるまい。だから増資、増資で雪ダルマみたいになつたが數十の子會

社もそれ／＼増資や株式公開をやり、結局鮎川の手中に落ちたプレミアムは驚くべき巨額に上つた。これについて彼鮎川は――

「天來の寄附金とも云ふべきプレミアム收得を利用して、先きの有望であり差當り多くの犠牲を拂はずには成立たない國家的産業の育成に盡し得ることはわが「日産コンツェルン」の大なる誇りで、日産の使命も亦そこにある。今度着手したダットサン自動車の如きも正にその一例である」と仲々意氣軒昂たるものである。

彼はかくて朝から晩まで事業々々で一刻も座つて居られない。運に乗じて、猪突猛進、手當次第何んでもかき寄せて行くところ彼の恐ろしい事業慾と、事業力がうがゞはれるのである。然し、何分にも既成大財閥の張りめぐらした事業網の間を縫うて前進せねばならぬ苦心もあり、積極に興つたものは積極に倒れ、獨裁に成つたものは獨裁に崩れた驗もないでもない。冷徹、才腕机龍之介とよくとへられる鮎川義介の戒心と、苦心もまたこゝらあたりにあるのではあるまいか。

財界國技館の一方の花形は日本電気工業の森蘆和であらう。彼の名はなか／＼むづかしいがノブテルと讀む。彼が政友會代議士候補として千葉縣下から打つて出た時、選舉事務員が森の名前が面倒で宣傳しにくいとコボすと彼の嚴父爲吉翁は、

「何をいふか。この馬鹿野郎、蘆和といふ難しい有難い名前をつけたからこそノブテルがこんなに偉くなつたんだべ」と一喝したといふ。

もと／＼森コンツェルの總師森蘆和は房總沿岸の旦那衆の一人で漁業組合から漁業權を借りてこれをツブの漁師に賃貸するいはば漁師の親分森爲吉の倅であるが、やつぱり今日の隆盛を築き上げただけに立志傳には以てこいであらう。

彼の立志傳は所謂一文を蓄め二文を節したといふ古風立志傳とはいさ／＼か趣きを異にしてゐる。森は新時代に處する彼の專賣特許とも云ふべき「廢物利用コンツェルン」なるものを創業し、封建的な臭みから一步出た思ひ切つた革新を行つたので、この房州の荒れ馬森蘆和は一躍日本の名馬いな世界的名馬に飛躍したのである。

元來、森は沃度屋であつた。日露戦争後の活況に乗じて明治四十一年に資本金五十萬圓の房總

水産會社を設立して爲吉翁を社長に、彼れ蘆和は専務に就任して近代産業組織に着手した。然しこのまゝの情勢推移ならば森は精々地方有力實業家、或ひは陣笠代議士風情で行き止つたかも知れない。彼はゆくりなくも味の素元祖先代鈴木三郎助といふ伯業に出遭つたことは彼の後年の飛躍の下地を築いた重大な動因といはねばなるまい。

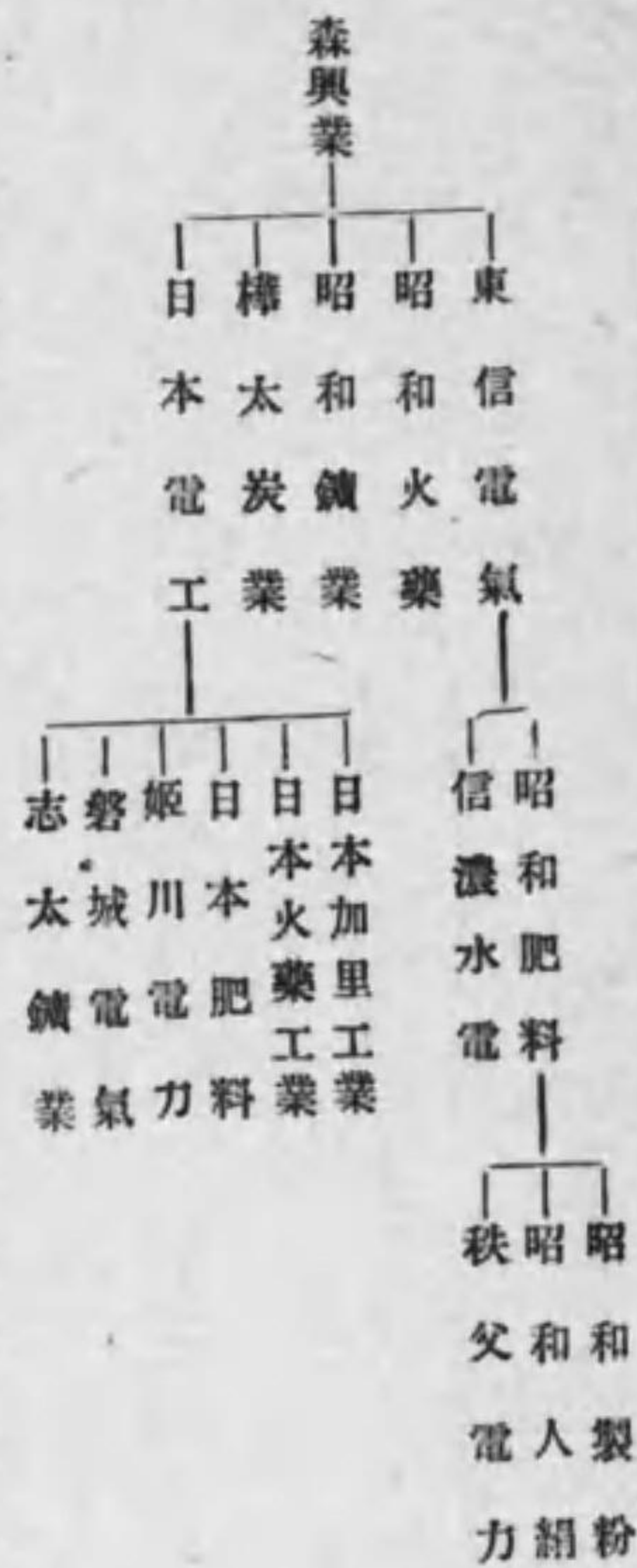
森——鈴木のコンビは歐洲大戰勃發によりいよ／＼深まり大正六年尊い體驗から化學工業生産費の大部分を占める電力自給の必要を痛感して東信電氣を創立した。當時は大戰の影響で外國の化學工業製品はバツタリ止まり反對に輸出がグ／＼増加する一方だから、電力はいくらあつても足りない。ところが大戰は終了して反動時代となり、電力が過剰になるし、本業の沃度特に鹽酸加里はフロイゲルを總師とする國際マッチトラストが戦後の疲弊に乗じて世界制覇の魔手をのばして來たので海外輸出がスツカリ駄目になり、森は元の本阿彌、親父の財産までスツてしまふ悲運に際會し、一家を引連れていつそブラジルへ逃げ出さうとさへ考へたものだといはれる。

然し今迄の捨石が奏効して、大正十三年には千葉縣からマンマと當選し、示來四回代議士をつとめ犬養や政界の先輩にすゝめられて捲土重來の意氣を以て東信電氣の再建と、沃度鹽酸加里事

業に大童となり、今日軍需工業の花形會社日本電氣工業の前身日本沃度會社を創立し、更に昭和三年には昭和肥料會社を設立した。元來この會社は國產獎勵の名目の下に政府から貰つた柴田式空中窒素法と東信電氣の過剰電力を基礎としたものだから、それからの森はまさに順風に帆を上げたやうなものである。それに時あたかも金再禁止インフレ判來と、軍需工業の隆盛を來したのだから彼の關係會社は矢繼早やに増資また増資を斷行した。かうなれば日産コンツエルンと同様元來の寄附金とも稱すべきプレミアムが續々舞込む。又しても設備擴張から新規事業開始といふことになる。これは日産の鮎川義介のやうな既成事業を買収して繩張りをひろげるといふ遣り方と異り、Aの仕事を始めるとこれを利用してBの仕事を始めまたこれを關聯してこの仕事を始めるといふ風ないはゞ一つも無駄にしない廢物利用のプリンシプルを企業哲學に應用したものだから森の多忙さは鮎川も三舍を避ける位である。

土曜の夜行に乗り引き連れて來た技師連を集めて車中會議、日曜日は一日工場視察に費し、又夜行で歸京して月曜日の朝にはチャンと味の素ビル内の社長室に顔を出して部下を指圖するといつた多忙さであり、能率的である。

森コンツエルンの全貌



彼の事業を見渡すことにしよう。先づ中心に電力會社があり、この電力が昭和肥料等へ送られて硫酸を作りこの製造工程で發生した副産物液體アムモニアは昭和火薬や日本火薬工業に於て爆發原料となり、他方第二の副産物たる硫化鐵滓は昭和鋼管（最近日本鋼管に合併）送られて鋼管の原料となつたり、昭和人絹で人絹製造の原料となる。さらに一方、中心たる電力が日本電工に送られて沃度、アルミニウムを作り沃度の副産物た

る鹽化加里が電氣分解で鹽酸加里となり、これから鹽酸曹達、過鹽素酸アムモニアとなり火藥、爆藥になるといふ順序では一つとして無駄なき廢物利用コンツェルンを形成してゐると云へるのである。

森コンツェルンは本營の森興業（資本金五百萬圓）を根據として御大森蟲起が社長におさまり日産コンツェルン程盛り澤山ではないが子會社とのつながりは一段と深い。株主も森一族か譜代の重臣とも云ふべき幹部に限られ、日産のやうに大衆に公開されてゐない。事業から云へば森の主宰する會社は化學工業の粹を衝いてゐるから日産の鮎川のそれよりもヨリ近代的であり且つ採算的であると云へよう。

森の日本電工は今や日本の代表的の化學工業會社であり、何んといつても「芋蔓式の經營」である點が強味である。主力製品はもと／＼外國輸入品の防過が目標である。されば森は、「一身の出世何かあらん。吾輩は貿易表から輸入品目を根こそぎ削りたいのぢや」と大氣焔を擧げてゐるのだ。

例へばアルミニウムはその一例であつて、遂に至難とされた明礬石よりアルミニウムと製造

する國産アルミニウムの確立に輝しき成功を納めたのである。然し何といつても過去は建設時代であつたが今は着々收復時代に入つてゐる。主力工場の擴張増設は既に一段落を告げ、今や日本電工の内容外觀は面目一新され、今年下期は大飛躍期である。アルミの生産能力は倍増するのに加へて、恰もアルミ關稅は二割以上となつて事業に一段の望みが加はることになるであらう。

要するに軍需インフレにます／＼ふくらむ森蟲起はハチ切つたアドバルーンのやうな童顏をテラ／＼させ乍ら、毎日を三十時間にも四十時間にも使つて、働け／＼、今を働けと關係會社を駆けづり廻つてゐる。

彼はまた二六時中何かしらプランを懷中に抱いてゐる。ゆゑに人呼んでこれを「昭和の淺野總一郎」といふ程無暗擴張家である。軍需インフレ、爲替安インフレのこゝ、數年來は正に彼の當り年であらう。

野 口 遵

日本窒素肥料、旭ベンベルグ、朝鮮窒素——等所謂日窒コンツェルンなるものゝ總帥野口遵は

所謂事務屋に對して所謂技術屋が壓倒的に優勢を示してゐることである。

社長野口遵、同副社長市川誠次は二人とも工學士の技術家であり、これを首腦として總計一千名に達する技術群が羽振りを利かせてゐるし、技術屋の彼の勢力は王侯的であると云はれる。各地の技術屋は頂度一本のベルトのやうになつて野口の下に統制されそれ／＼の部門に立てこもつて試験管をふり廻してゐる。

彼は最初ドイツのシーメンス會社へ入つて研究したが後日本窒素の主宰者となり、一人一業的にコツ／＼今日まで守り立てゝ來た。技術屋としての野口は、自身で發明や發見をしたことがないといはれるが、技術を愛しドイツの合理化主義を信奉する彼は外國雜誌を讀破して儲かりさうな特許を見出すと、朝鮮海峽でも渡るやうに太平洋や印度洋を身輕に乗り越えて海外に出かけて行くのである。

こゝで彼の事業家としての抱負をのぞいて見るならば、彼は徹底的な唯物論者であることが觀取される。彼は

「余は自己の經營する會社の政策の批判は如何やうにも甘受する。唯技術に對して批判された

時のみ余は眞劍に答へるであらう。日空なる會社は歴史の進展と共に崩れるときがあるかも知れぬが、余が築き上げた工場——技術は次の社會まで引繼がれるであらう。恰もソヴェート聯邦に於けるドニエプロ發電所工事と、朝鮮赴戰江に於ける工事（彼の經營する朝鮮赴戰江大發電所は發電力十六萬キロであり正に東洋一の偉觀である）を關聯さして考ふべきだ。余は唯物史觀の正しさを認めてゐる」

さて話が一寸堅くなつたが、彼はその財産上から見れば何千萬の長者であり、その事業家的見地から見れば我が日本の製肥王である。財界の十傑を選ぶならばその仕事を評點するまでもなくこの選に入るであらう。

好調を續ける時局インフレ景氣は彼の關係する各種の爆發原料、火藥製造の部門に大繁忙を齎し、産業資本コンツェルンとしての日本窒素は幾多の有利な條件の中に發展しつゝあると云へる。軍需インフレの波に乗つて躍り出した野口遵はおなじくインフレ男と云はれる日産の鮎川義介と對照され、化學工業の當り屋森コンツェルンの總帥森森祖とも比較される、丁度軍事インフレ三人男のやうに。

中島 知久平

飛行機と軍需工業——車の兩輪の如く切つても切れない關係であらうこと位は誰人にも考へられるのである。そして、飛行機と云へば中島を聯想するといふやうに、中島飛行機會社は大きな存在となつてゐる。

三菱重工業の航空機、川崎造船所の飛行機にも優に匹敵する勢力は、今や名實共に中島知久平と日本の飛行機王たらしめてゐると云へよう。

滿洲事變以來、澤山の愛國號が獻納されたが、中島飛行機はこれらの優秀な軍用機の製作に大なる權威を發揮したことは世間周知のことである。

飛行機王中島知久平の人生行路は商賣柄ではあるまいが恰も大膽な旋回飛行の連続であつた。

彼は優秀な海軍機關大尉として輝く洋々たる前途を一擲して、三十四歳で飛行機製作事業を指して財界へ急カーヴを描いたかと思へば、四十七歳でこの直線飛行らかまたく轉回政界への第一歩を踏み出し、強豪群らる政友會で押しも押されぬ巨然たる存在となつた。

事件後の廣田内閣組閣に當つて廣田首相より入閣を懇請せられたが、不幸軍部よりかゝる軍需品會社の實際家の入閣はお断りすると横槍が入つた爲め彼の閣僚は實現しなかつたが、政界に於ける彼の巨大な勢力を物つて餘りあるのである。中島飛行機株式會社の所在地群馬縣太田町では彼をまるで景氣の神様のやうに云つてゐる。それもその筈でこの會社出現以來町の繁榮は全くこの會社で維持されてゐると共に、優秀熟練工となると月收三百圓や四百圓にもなるし、その景氣は實際時局インフレとそのまゝに反映してゐるやうなものである。まことに軍需インフレなる哉である。

いま彼は如何に飛行機王になつたかについては是非少しの紙数をさかねばなるまい。彼は上州の産、大正六年病氣を理由に断然海軍を去つて故山に引籠り、どうしても日本の飛行機製作事業を振興させねばならぬことを痛感した。海軍の同僚が彼の所へ押しかけてその海軍へ復歸を勸請するのであつたが、腕を組んで唇をかんだ彼の頭には苦難の半生、飛行機研究の足跡と世界航空界の現勢が走馬燈のやうにクル／＼映出してやまなかつた。

時は大正六年、世界大戰の最中、戦火渦巻く歐洲の空には軍事作戦を根本から打揺がした航空

隊の精銳が爆音勇ましく銀翼をつらね驚くべき威力を發揮してゐるのに、日本の航空界はそれに比較してまるで赤ん坊のやうな幼稚さである。彼の航空機製作志望へ大きな拍車をかけたのは當然である。海軍を待命となるや郷里にあつた帝國飛行協會の修理工場を借り受け、村の青年を集めて俄仕立の職工となし、希望に燃えて突進したが、當時の社會では奇異と嘲笑さへ受けたのであつた。

然し、資金の缺乏は蔽ふべくもない致命傷であつたが、折もよく日毛社長で關西財界の大立物川西清兵衛の出資により、大正五年資本金七十五萬圓の合資會社日本飛行機製作所を創立し、工場を太田町へ設け、かくして中島式飛行機は太田工場で初聲を上げるに及んで郡民の奇異は一掃され、中島式飛行機が空を賑はすやうになつた。

然るに順調なる彼の事業に破綻の目が來た。川西側の代表者と中島との間に技術上の問題について意見の衝突が起り、川西側が資金を引上げるやうになつたのである。然し問題が技術上の問題であつた丈けに腕に自信のある彼は一步も退かず資本の引上げを覺悟で最後までガン張つたところ如何にも上州ツ兒の面目が窺はれる。あの剛腹な彼が如何に苦境に立つたかは想像に餘りあるが、やがて猛然と立ち上つて獨力で經營するやうになつたのが只今の會社の前身中島飛行機製作所である。

この時彼の苦境に同情して資本調達のため奔走したのが當時上州政界の巨頭として鳴らした武藤金吉であつたと傳へられる。捲土重來、立直ることゝなつた彼の事業は舊に倍し素晴らしい躍進を示すやうになり、陸軍でも彼の技術に信頼して相變らず注文し、やがて海軍側からも軍用機の注文を受けるやうになり、順調裡に大正十三年東京荻窪に發動機専門の工場を新設して彼は愈々日本飛行機界に雄飛するやうになつた。

製作される飛行機の數も多種多様になり、戦闘機、練習機、水上機、偵察機、爆撃機等の軍用機やB六型、B三六型、フォッカー、スーパー、ユニバーサル等の商業機をも製作するやうになつた。資本も昭和六年十二月には一躍一千二百萬圓に増資され組織も改められて中島飛行機株式會社と改稱され、名實共に中島知久平は日本の飛行機王となつた。

飛行機王中島知久平と云へば如何にも事業家肌の人物が想像されるであらうが、彼はさうしたタイプから凡そ縁の遠い人であり何時もニコ／＼してゐる。觀相學上から云つても、彼のやうな

タイプは、ヴァイタル・テムペラメントと云つて、模範的な營養質であり、大業をなす偉人の相だと云はれる。宜なる哉、今日日本の航空界の大御所であり、日本民間飛行界育ての親の一人として榮譽ある事業を背負ひ、財界特異の存在となつた飛行機王中島である。

中島飛行機會社は系統から云へば三井系に屬し、今や三菱重工業、川崎造船所と共に日本航空機界のピカ一であるから、當今の軍需インフレには黄金に雨に見舞はれ、日夜繁忙また繁忙の好景氣である。彼は先年令弟喜代一に社長の椅子を譲り、只管政界生活に専念してゐるようであるが、彼の實力は仲々底の知れない大きさをもつてゐるし、何といつても日本の飛行機王の貫録は充分であらう。

白石元治郎

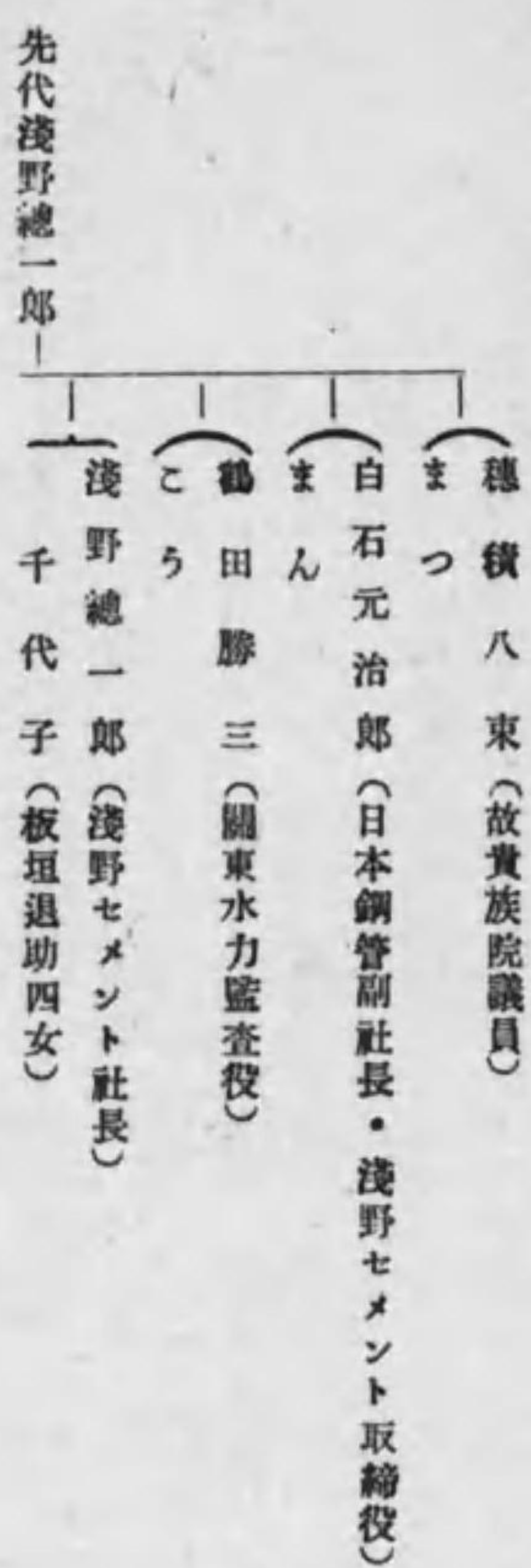
日本産業界の心臓部、京濱川崎市に林立する巨大な煙突、モウ／＼と立ち上る煤煙の亂舞。まことに日本産業界躍進の象徴である。

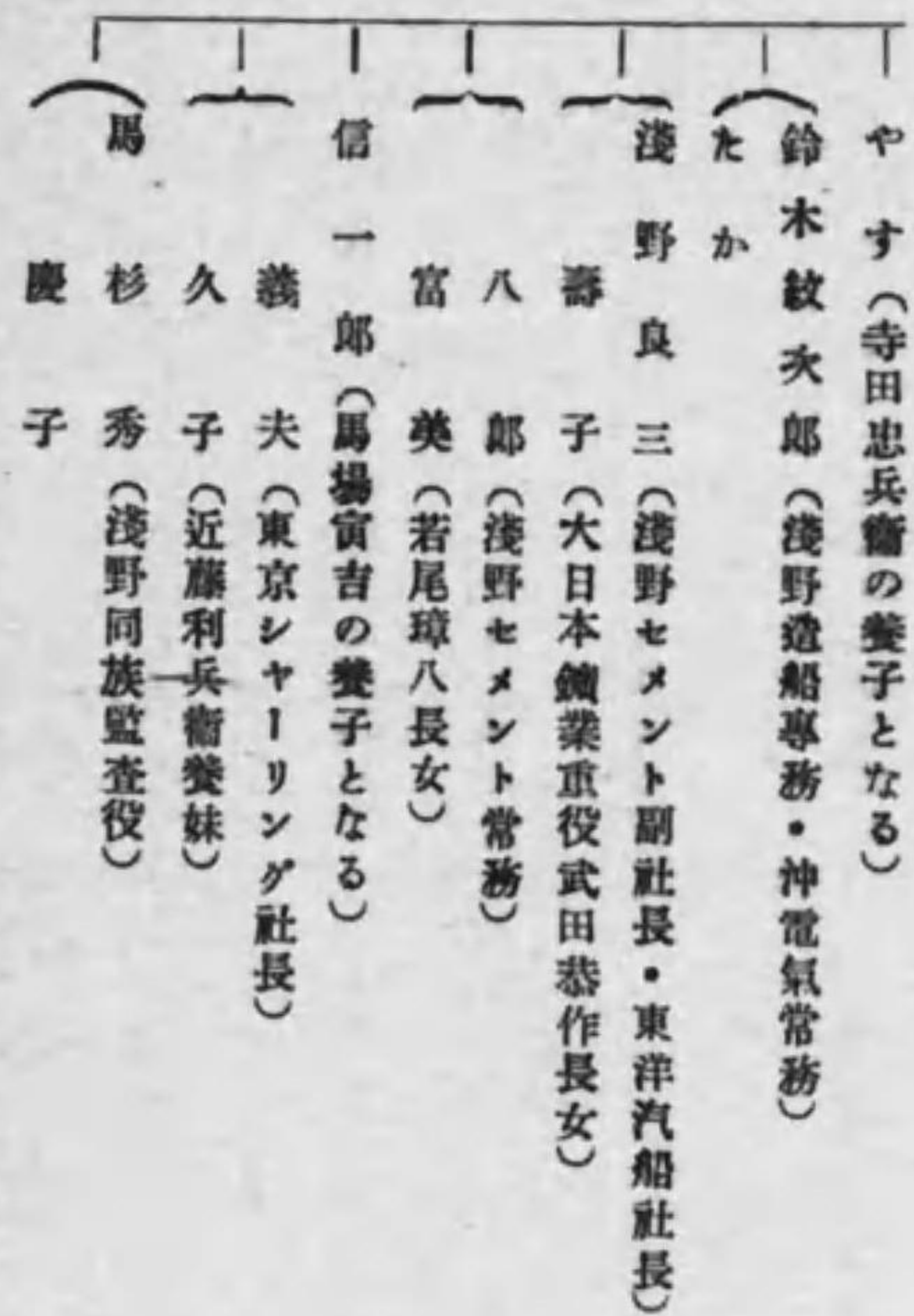
京濱國道品川より三十分、新興鶴見川崎工場地帯へ行けば、日鐵の八幡製鐵所をやゝ小規模に

した巨像わが日本鋼管の大工場がその姿を横へてゐる。國道から會社まで専用道路を作り、附近の人々これと呼んで鋼管道路といふ程だからその偉觀は想像に餘りあらう。

日本鐵鋼會社の代表的會社日本鋼管は、社長に財界の古豪大川平三郎を戴き、副社長白石元治郎である。然し白石は日本鋼管の實際の仕事を引き受け、時局來の軍需インフレにガツチリ躍り出たピカ一である。

彼は故淺野總一郎翁の女婿であることは知る人ぞ知るであらうが、いまその系統を次ぎに示して見るのも面白からう。





彼は水野鍊太郎など、同期の東大出であり、最初は東洋汽船にゐたが、後日本鋼管を創立し、七十歳の老齢に達する今日までその大半を一意専心日本の鋼管事業確立の爲めに健闘して來たいは、鋼管界の父である。

一體、鋼管といふものは本來外國の輸入品で、ベルギー、フランス、イタリー等が先進國であ

り今日でも國際鋼管シンジケートといふ聯合國體が外國に存在し、絶えず外國市場獲得を狙つてゐる有様である。然し、日本鋼管の存在は我國で唯一つ（尤も後に濠澤系の昭和國管が創立されたが後日本鋼管に合併）である爲め、この歐洲品を向ふに廻して國內市場の獨占と滿洲國、南洋市場への進出に大童である。

白石の採配を振る日本鋼管は職工總數三千人を算するといふ一事に依つても又昭和十年下半期に五百八十三萬圓の利益金を計上してゐるのを見てもその繁忙振りと躍進加減が想像されるのである。鋼管會社といつても水道や瓦斯管のみを製造してゐる譯ではない。丸鋼、山形鋼、平鋼、角鋼、特殊鋼など幾多の鋼材を生産してゐる。なんといつても時局景氣の恩恵を受けるものは軍需工業だ。艦船をつくるにも鐵砲を造るにも原料たる鐵鋼材に費される額が一番大きいであらう。寔に鐵は非常時の鍵といはねばなるまい。

かくて同社製品の需要先である鐵道、電鐵、海運、鑛山、瓦斯、水道其他一般建築界が相當の活況を續けてゐるのに加へて、軍需工業の活況であつてみれば彼の得意やまた想ふべしであらう。時局インフレは白石元治郎を軍需工業界の花形に押し出した所以また無理からぬことであらう。

軍需品會社の展望

◇三菱重工業株式會社（資本金六千萬圓全額拂込）

昭和九年四月舊三菱造船、三菱航空機が合併して成立した重工業綜合會社である。その際三菱重工業新株募集のプレミアム収入だけで優に何百萬圓の儲けを記録したことは世人の未だ記憶に新しいところであらう。

三菱重工業は軍需事業に關する限り強敵三井王國より遙かに優勢であり、特に造船業に於ては壓倒的優勢を示してゐる。資本金六千萬圓全額拂込済の日本有数の軍需會社であると云へる。従つて當社の受註のその半分位まで軍需關係品で占められ、軍事費が膨脹すれば受註増加はテキメンに現はれて来る。

殊に最も重要視されてゐる飛行機、艦船の建造に力を入れて來たのは何んと云つても強味で現在既に一億五千萬圓の受註高を有してゐるが今後は益々殖えるであらうと云はれる。（東洋經濟會社四季報所載）特に艦船類の受註が特に多い。現在民間、軍部の建造註文は大小六十餘隻に及

び大戦當時に髣髴する繁忙り振を示してゐるが、今後更に第三次船質改善助成施設が行はれようからその活況が偲はれる。又飛行機製作に於ても好調であるが、元來飛行機は壽命の短かいはゞ消耗品として取扱はれる點から我國現在の航空擴張時代にはいよゝゝ業績が囑望されるであらう。

ひと頃は海運界の沈没的不況、海軍々種でスツカリ参つてゐたが、待てば海路の日和で當節の軍需インフレ時代を迎へることになり、今や軍需景氣に微笑まれた三菱重工業はオール三菱の儲けのドル箱といつても過言ではないであらう。

當社の人的關係を見れば取締役會社には三菱王國の中堅であり（日本工學界の大御所、斯波忠三郎男の令弟）斯波孝四郎が就任し、常務は伊藤達三、共に三菱財團の人材として聞えてゐる。元社長海軍中將武田秀雄が相談役。

◇株式會社芝浦製作所（資本金千五百萬圓拂込済）

日本工業界で最古の歴史を有する三井系の會社であり、大戦後の不況で一時一千万圓に減資したが現在は一千五百萬圓全額拂込済である。近來の軍需品大口註文に恵まれ、最近東京電氣と提

携して資本金二百萬圓の大井電氣會社を創立したが、この外石川島造船と共同で大型發電機製作會社を設立する計劃があると傳へられる。

社長は昭和五年岩原謙三の後を襲つて三井物産より轉じた平田篤次郎である。彼は慶應出身永らく三井物産各地の支店長を歴任した商賣上手な且つ計數に明るい人と云はれるから適材の聲が高い。

◇古河電氣工業株式會社 (資本金二千二百六十五萬圓、拂込一千四百五十一萬三千圓)

仲銅、各種電氣、電纜、電池、輕合金條管、板、棒、特殊塗料等を製造する會社である。明治二十九年の創立であるが、昭和七年下期以降、所謂軍需インフレに恵まれて、期毎に向上して來てゐる。そしてその向上は堅實なものである。昭和九年に合併した尼ヶ崎、日本兩仲銅所の齎す利益で業績は一段と躍進してゐる。何んと云つても當社の製品の大半は直接、間接に軍需品製作に不可欠であり且つ製品の種類の多種多様性が強味であらう。

社長中川末吉、専務杉本五十鈴、であるが元來この會社は大株主に三菱鑛業も參加してゐるので三菱より取締役として三谷一二が參加してゐる。

◇住友伸銅鋼管株式會社

大正十五年創立。住友直系の會社であり、主要製品は銅、眞鍮、亞鉛、アルミニウム其他各種合金製品の鑄物鋼管などで頗る廣汎な範圍に亘つてゐるがその九割以上は船艦材料、航空材料を作るいはゞ完全なる軍需品會社である。従つて上海事變勃發以降はその業績は著しく伸展し良好な利益率を示してゐる。會長は住友財閥の柱石として餘りに有名な存在たる小倉正恒である。専務は古田敬徳の養子古田俊之助、常務は住友本店製銅販賣店時代からの功勞者である春日弘である。其他當社の大株主住友銀行を代表する目付役どころとして八代則彦が監査役に就いてゐる。

◇日本製鐵株式會社 (資本金三億五千九百八十二萬一千圓)

當社は舊八幡製鐵所を中心に民間六鐵鋼會社を合併成立した會社であり、我國鉄鐵生産高の全部、鋼材生産高の五割を獨占してゐる結果低生産費に恵まれてゐる。近年の業績は頗る好調を辿りつゝある。いま當社の大株主を示せば、

大 藏 省 五六八三九〇〇株
釜 石 鐵 山 四五二三七五株

輪西 鑛山	二三二四〇株
九州 製鋼	一四四〇八〇株
三 菱 合 資	一二三六一〇株
三 菱 重 工 業	一〇〇〇〇〇株
三 菱 鑛 業	五九九〇〇株
富 士 興 業	五五四六〇株

中井勲作を社長に井上匡四郎、磯村豊太郎、松本健次郎、牧田環、澁澤正雄、郷誠之助といった財界著名の士が取締役中に顔を揃え、監査役には樺山愛輔西野惠之助を見出すなど堂々たる重役陣である。

◆東京石川島造船所 (資本金八百萬圓、拂込六百萬圓)

明治二十二年創立、七期に亘る長期缺損續出會社石川島も八年上期より一躍黒字に飛躍し、そして減資整理以來、當社の面目は一新された。昭和十年十一月末決算では利益金六十三萬圓を擧げ現在の受註高は約三期分にも當る二千二百萬圓にも達し、益々好調を辿りつゝある。海軍々縮會議の決裂で造船、造機とも一層の受註増加が期待されようから、當社は頗る發展性に富んでゐ

ると云へよう。近く飛行機のエンジン製作に乗り出すことになつたと報ぜられるからこの方面でも新機軸を出す豫定と云はれる。

豫備海軍中將松村菊男が社長である。彼は造船、造機製作に造詣深く、蓋し當社の中心勢力として適任であらう。

◆川崎造船所 (資本金八千萬圓拂込済)

軍事費の膨脹、船舶助成施設の恒久化、海運界の好調、海運保護政策の強化傾向、等に依り造船界は一層の好轉が期待されるが御多聞に洩れず川崎造船は二ヶ年分の仕事を手持して、新規引合はこれを断つてゐる状態であると云はれる。艦船工場の繁忙振りや察せられるに充分である。

他方、飛行機工場の積極的活躍があり、製鋼工場も好調な推移を辿りつゝある。昭和八年只今の文相平生夙三郎が無給社長として就任し、縦横の才幹を示したことは餘りに有名であるが、現在は鑄谷正輔が社長である。専務川崎芳熊は當社創立の親である故川崎正藏翁の孫であり少壯實業家のピカ一でもあり各方面の信頼が固い。財界パニツクで破産にまで瀕したことを考へると正に隔世の感があり、今や軍需インフレの波に躍つて躍進また躍進に大奮である。

◇日本皮革株式會社 (資本金五百萬圓拂込濟)

滿洲事變後の軍備の補充、軍用資材の整備で軍部よりの莫大な受注は昭和十一年三月の決算では差引益金六十二萬九千圓を擧げた。

由來我が國の製革界は、原料皮を専ら海外に仰ぐ關係上、相當の原皮買付金を必要とするが、當社は資本方面から見ても(大株主大倉組)歴史的關係から見ても群小の同業會社に比べて全く壓倒的地歩を占め、獨占的地盤を有してゐる。これこそ當社の特徴といつてよいのである。販賣方面に於ても軍靴、馬具、背囊、彈藥蓋等の軍部納入があるからその將來性に於ても頗る恵まれてゐると云へよう。

會長に伊藤琢磨就き、取締役は大倉組の總帥大倉喜七郎が居る。

◇株式會社新潟鐵工所 (資本金六百萬圓、拂込五百五十萬圓)

好調を続ける機械工作會社中でも新潟鐵工は出色の成績を示し大いに飛躍してゐる。昭和十年下半年決算をみても利益金九十一萬四千圓と云ふ好績を示し、内容も不況時代から比較すると見違へるやうに良好になつてゐる。當社の事業の中心をなすものはディーゼル機關、工作機械類であ

り、軍事費再膨脹といふ好材料に微笑まれて恬況甚だしいものがある。

社長笹村吉郎は大正十五年内藤舊日石社長の後を襲つて社長となつた人であつて、同社今日の大功勞者である。専務長島吉次郎、取締役日本石油社長橋本圭三郎が就いてゐる。

◇株式會社神戸製鋼所 (資本金二千萬圓拂込濟)

元來神戸の鈴木商店の經營に依つたものだが、鈴木商店破綻で擔保關係から株式の大部が臺灣銀行のものとなつて専務に臺銀系の森本準一が就き社長には鈴木商店代表格で明治卅八手當社に入つた田宮嘉右衛門が就任してゐる。

製品は凡て軍需向きのもので、ディーゼルエンジン化學工業用諸機械、壓搾機、及び造船用車輛用鑄鍛鋼品、鋼材線材等廣汎に亘り職工二萬四千人を使用する大工場である。

◇大阪製鎖造機株式會社 (資本金三百萬圓拂込濟)

我國の鎖鎖事業を獨占する海軍省指定工場であり、近平又陸軍省指定工場ともなつて益々隆盛の好運に恵まれてゐる。船艦錨鎖、エレベーター、一般機械類の製作より一步出で、飛行機プロペラー、トラック用ディーゼル機關の製作計劃の爲め去る三月の臨時總會で増資案が確定したと報

道される。社長古田敬徳が明治三十七年個人經營で創立してより幾多の買収を経今日に及んだ。

◇大阪機械工作所 (資本金五百萬圓拂込三百三十一萬三千圓)

世界大戰當て込んでの兵器製造を主眼とする出發より大正四年創立されたが、思ふ壺だつた世界戰爭の好景氣に増資又増資つひに今日の隆盛を招いた。然し當社製品の主要部分が紡績、人絹毛織用機械である爲め紡績界の好調と相俟つて業績の順調を見せてゐる、勿論内燃機關や軍需品の製造も當社の主たる事業であり、益々發展の一路を辿るものと云へよう。社長の原清明は例の歸化人H・ハンター(範多)商店の支配人だつた人であり、ハンター氏に重用されて今日に至つた。

◇東京計器株式会社

從來我國に於て輸入にのみ依存してゐた諸計器の製作に成功した當社は目下斯業に於ては東洋隨一の名聲を博し海軍省その他官廳造船所釜山よりの受註殺到し、軍需景氣には直接間接に幸せられてゐる。通信器、信號器、兵器、計器、探照燈等がその主要製品である。社長和田嘉衡は苦學力行の人で正に立志傳中の人物である。

◇浦賀船渠株式会社 (資本金七百萬圓、拂込六百十二萬五千圓)

世界大戰には外國船の注文まで受けた我が造持界は異常の伸展を示したが、其後世界末會有大繋船の不況に遭遇して悲境に沈論してゐたところ、昭和七年以降の船舶改善助成法に依る新船建造に活氣を呈し初め、續いて海軍第二次補充計測で浮び上つた造船界の一般の洩れず當社も頗る好調に發展して來り、去る一月の重役會に於て最終未拂込百七十五萬圓を二回に亘つて徴收することにした。前途には軍事需要が多い關係もあり、現在の船臺改造に伴ふにつれ受註高も更に殖えるであらう寺島健が所業發達の功勞者故今岡純一郎の後を享けて社長に就任し、山下汽船の山下龜三郎が相談役になつてゐる。

◇帝國製麻株式会社 (資本金一千七百十二萬五千圓、拂込一千六十七萬五千圓)

ツツク、天幕、ロープ、飛行機翼布、帆布等軍需景氣と大いに關係のある帝國製麻もまた時局インフレの仲間から洩れない。

我が製麻界が帝國製麻の統制下にあり、而かも好調を維持してゐる爲め當社の飛躍は近年著しく好轉してゐて、製麻軍需品の御所といつた觀がある。元來安田系の會社である。取締役安田

善五郎、大橋新太郎の面々を揃えてゐる。

◇東京製鋼株式会社 (資本金一千五十萬圓、拂込八百五十萬圓) 飛行機乃至ピアノ用高級鋼線は當社の獨占に委ねられ、他の追隨を許さないのみか我國ワイヤーロープの生産高の過半數を占めてゐる。其他マニラロープ、ドロールロープ等を製造するが一體これ等の製品は消耗品なので假りに新規需要が加はらなくとも受註の感る心配がないと云へようからこれは特記すべき強味である。財界の好轉と共に近時頗る好調に恵まれ受註は期を遂ふて増加して行く有様である。

専務は男爵赤松則良の長男赤松範一、取締役は大倉組の一族大倉象馬が居る。

◇日本光學工業株式会社 三菱重工業の傍系會社であり、潛望鏡、望遠鏡、双眼鏡、其他光學諸具の製作に従ひ軍需關係専門の會社である。

さて以上は大體の軍需品關係會社一覽に過ぎないが、要するに重工業機械製作部門を或ひは立直らせ、或ひは膨脹させた軍需インフレは、化學戰豫想の下に化學工業界に黄金の雨を降らし日本染料、大日本セルロイド、帝國火藥工業、日本曹達、合同油脂、日本硫黄旭電化等々々は種々な關係から軍需品製造を擔當し、半期／＼に幾十萬といふ利益をあげてゐるが詳述は略す事にしよう。

愛讀者諸氏へ！

忙しい現代人には智識吸收のスピード化が必要であります。轉變、止むことなき世界の情勢、日本の居ります。

動き——これら問題を常に簡潔に御註文は本社振替口座東京八九三而かも正しくスピーディーに編んで八二番を御利用下さるか、切手代讀者へ送り度いと我社の努力は經用又結構でございます。十部以上えず傾倒されて來ました。既刊各種は各位の購辭の嵐、まさに適時

安打でありました。何卒既刊書も御併讀の程願ひます。時局は廻轉する。我社は内容の

「定期會員」制を組織して特別の廉價に賣切れの怖れなく入手出来る方法もあります。

軍需工業に躍る人々

定價 金 十 錢 (送料二錢)

昭和十一年六月廿二日印刷納本
昭和十一年六月廿五日發行

著者 國防經濟研究會編

發行所 東京市京橋區橫町一ノ五 (城邊ビル)

發行所 古 西 清 光

印刷所 隆文舎印刷所

東京市京橋區橫町一ノ五 (城邊ビル)

發行所 有 恒 社

電話京橋(56)四〇六六番
振替東京八九三八二番

◇廣告料金 廣告掲載御希望の向は御照會下さい

◇特約大取次店 東京森田書房・東京啓徳社・東京鐵道保養會・大阪新正堂書店



好評

—— 重版 たび 重版 ——

さきにドイツ再軍備を宣言し、今年に入るやロカルノ條約廢棄の爆弾的宣言をなし堂々ライン進駐を敢行せるドイツ總統ヒットラーは今や伊の鐵血宰相ムツツリニと共に世界に於ける獨裁王として彼の一舉手はよく全世界を震撼せしむる恐るべき存在である。明滅する獨逸包圍陣中において彼ヒットラーは何を考へ何を凝視するか。彼は如何に現在を戦ひ取つたか。正に現代知識人の必讀文字である。

近藤啓助著 定價十錢

爆彈男

ヒットラーの全貌

有恒社發行

電話京橋(56)四〇六番・二九三番
振替口座東京八九三・八二番

大事件後の日本

定價十錢
送料二錢

未曾有の大事件勃發を契機として我が日本の政治、經濟、外交、財界、政黨、軍部は如何に對處しつゝあるか。また極東の情勢と其の對策は如何。新時代の實相を把握せんとするものは本書を讀め！

早見賢治著
好評五版出來

有恒社發行

電話京橋(56)四〇六番
振替口座東京八九三・八二番

▷ トツレフンパ刊既評好 ◁

木村淳一郎著 忽ち二十版	實踐浮世哲學	安	送料二十錢
木村明達著 好評五版	頭腦の若返り法	絶版 安	送料二十錢
和田貞造著 三萬部發行	着眼の人生	定	送料二十錢
和田耕之介著 六萬部發行	次期内閣は誰の手中に	定	送料二十錢
近藤啓助著 拾萬部發行	露滿國境切迫す	定	送料二十錢
近藤啓助著 目下發賣中	爆彈男ヒットラーの全貌	安	送料二十錢
早見賢治著 目下發賣中	大事件後の日本	安	送料二十錢
國防經濟 研究會編	軍需工業に躍る人々	安	送料二十錢

社 恒 有

地番五目丁一町橋區橋京市京東
(ルビ城邊)
番二八三九八京東替振

終

